

# どんびま

2008年7月10日発行  
発行者 椈の湖農業小学校

## 出合いに感謝

須坂市での農小シンポジウムで椈の湖農小の活動報告をした。最後に農小をやってきて一番の成果は多くの人たちとの出合いだったと話した。

私自身も、子どもたちを含めて多くの人たちと知り合い関わって、本当に多くを教えられ、学ばせてもらった。

先生役に地元のお年寄りをお願いしたのは、農作業だけでなく、農村に伝わる伝統文化や生活の知恵を教わりたかったからだ。期待以上の活躍ぶりで子どもさんや親さんたちから賞賛の声もあがった。素敵なじいちゃんばあちゃんは故郷の自慢でもある。

今自分がジィバァと呼ばれる歳・立場になって伝えられることの少なさに恥ずかしい思いである。  
(草)



**ドクダミ** 独特の強い臭いがする。花は清楚で美しい。花の中央すりこぎ状の部分は小花の集まった花穂。白い花弁に見えるのは総包。繁殖力旺盛で、いちど蔓延ると根絶は難しい。当地名ドクダンベ。

## 7月授業日のご案内

日程 7月20日(日)  
受付 9:00 ~ 9:30  
始めの会 9:30 ~ 9:40  
授業 (畑仕事) 9:40 ~ 11:30  
カブトムシの運動会  
昼食 11:30 ~ 13:00  
授業 13:00 ~  
キャンプの相談  
かかし作り  
終わりの会 15:00 ~ 15:15

服装 作業のできる服装  
持ち物 手袋、タオル、長靴、雨具、  
買い物袋、箸、食器、スプーン

昼食 カレーライス、サラダなど

締め切り 7月16日(厳守)

カブトムシは育ってますか。運動会をしますので持ってきて下さい。

かかし作りの準備(先月お話したように、8月にかかしコンクールをします。)

骨組みは準備しますので、頭部、帽子、着物などは各自で準備、工夫して下さい。

問い合わせ・緊急連絡 TEL 0573-75-4417 ・090-5110-9362(山内總太郎)  
TEL 0573-75-2109(椈の湖自然公園管理棟) 当日のみ

～とくちゃんの農小レポート～

## 「ほうば寿司美味しかったよ！」

今月はとても悲しいニュースが入りました。昨年までは保護者として、今年からはスタッフ専属として大活躍中の、ケロヨン加藤こと加藤弘之さんが、交通事故により突然この世を去ってしまいました。八面六臂正しくマルチ人間を絵に描いたような、たぐい稀にみる才能の持ち主で、農小にとっては貴重な存在でした。彼の冥福を祈り三分間の黙禱を捧げました。

### 1 午前の授業

- \* 畑の草取り。 野菜の育ちが初期のため、草取りはとても大切な作業です。頑張っ  
て 良くできました。
- \* 植付け。 サツマイモ、サニーレタス、落花生、とうもろこし、赤しその苗を植え  
付けました。イノシシさんに食べられないように祈りましょう？
- \* 収穫。 レタスと白菜。今年はこの時期雨が少なかった所為か、とてもよく出来て  
いました。

ジャガイモは試し堀り（成長確認）の予定が、説明不足のため沢山掘り上げ、その上各自勝手に持ち帰りましたが、これはルール違反です。必ず公平に配分したうえで、持ち帰りとして支給いたします。新入生の方で持ち帰っていない人もいますので、この方たちには7月に支給しますので申し出てください。（校長が説明不足を謝っていました）

### 2 昼食

- \* ほうば寿し。サラダ。吸い物。漬物。  
ほうば寿しは朴の木の葉っぱに寿司飯をのせ、その上に彩りよく具をのせて葉で包み、朴の香りと共に季節感を味わう、この地方独特の郷土食です。初めて食べた人はちょっと驚きだったのかな？

### 3 午後の授業

お茶摘み。お茶もみ。紙すき。 グループを二組に分け、お茶摘みと紙すきを交互に体験しました。お茶もみは手のひらが真っ黒になるまで揉めたかな？ 持ち帰ったお茶は乾燥して焙じたのち味わってね！  
紙すきは押し花持参の生徒さんが沢山いて、とても素敵な作品が出来上がっていました。いずれ作品展を開きますので出品して下さいね。

### 4 おやつ

ほうば餅。ひねり餅。

### 5 持ち帰り

レタス、白菜ともによく出来ましたので各1個ずつ。大根はアボ兄が家から持参したものを頂き2本ずつ配りました。

～とくちゃんのちょっと一言～

ペンネーム「けるよん加藤」。運動とか活動とか特にボランティアなどは、人材の技量に負うところ大なるものです。その点加藤さんは便利この上ない存在でした。彼の言葉の中には「不可能」の文字は無かったです。農小はもとより、好辛倶楽部、小町好房（竹炭焼き）と深い関わりを持ち、常に前向きな発想とユーモアで導いてくれました。残念無念。誠に残念。

～ あぼ兄の百姓ばなし～

## 「あぼ兄がケガをした」

「あぼ兄は考える葦である。

お見舞い申し上げます。

世界の情報は伝わってきても、あぼ兄の怪我のニュースは伝わってこなかった。

怪我して痛みを知り、健康の有難さを覚える。

おめでとうございます。難はありがたいことです。(後略)」

こんな見舞い状を受けとった。

実は、電動のこぎりで板を切っていた時、急に撥ねて右足親指のつけ根部を負傷したのだ。久しぶりに農作業を3日間休んだ。その間に、よくケガをした子どもの頃のことを思い出した。

あぼ兄の子どもの頃の田植えは6月だった。麦を刈ってから代かきなど田植えの準備をすることだった。あぼ兄は小学4年生から牛を使って田起こし・代かきをした。鼻とり(手綱を持って牛を誘導する仕事)は母親か弟たちだった。もちろんあぼ兄も小さなうちはやらせられた。誘導するとは云いながら、牛といっしょに追い立てられる厳しい仕事で、幼い子どもには辛いことだった。その頃は田植え足袋などなく、素足で田に入った。小麦の切り株や里山から刈って入れた柴草などで足は傷だらけになったものだった。傷は風呂に入ると痛んだ。当時は赤チンキがなによりの薬で足中真っ赤になるほど塗って、夜は疲れで痛みを忘れて眠り、翌日は又田んぼに入った。

当時(しばらく後まで)小学校には農繁休暇が春秋1週間ほどづつあって、子どもといえども大事な家族労働力だった。

麦刈りなどで指をケガすると、母はすばやく泥だらけの指の傷をなめて、被っている手拭を裂いて巻いてくれた。目にゴミが入った時は手拭の端をなめて小筆の先のようにして取ってくれた。石ころだらけの道ではよく躓いたり滑ったりしてヒザ小僧をすりむいた。そんな時は田の畦に生えている「血止め草」と呼んでいたかわいい葉っぱを自分で見つけて貼った。昔の子どもはたくましかった。母も。

何年か前に有名な京都府園部町の町長さんに会ったとき、ある人があぼ兄を「子どもたちを集めて農業体験をしている人」と紹介してくれた。すると町長さんは「わたしも子どもたちを野山で思い切り遊ばせて、怪我をしたら自分で処置する体験をさせたい。」と言われたことも思い出した。

農業も機械化が進み、大型化し一つ間違うと大変なことになる。あぼ兄の身近でも命を落とす事故が近々にあったばかりだ。あぼ兄自身もトラクターに乗って、エンジン音とあのスピードでつい居眠りをして危険な目にあったことが何度かある。振り返ってみるとこの歳まで大きなケガが無かったことの方が不思議なくらいだ。誰かが守っていてくれるとすると感謝の気持ちになる。

両足切断の重大事故から見事に復活した小林トクちゃんや、10回も手術したソウちゃんに比べれば、小事で済んだが、痛みと健康の有難さは良く分かった。

人間は災害にあつて強くなると聞かすが、あつてはならない事故や災害。そうかといって生きていくのに何もしないわけにはいかない。小事が大事にならないように、小さな体験をつみ重ねて強く生きることが肝心である。

友人の見舞い状のごとく小難あつて考えること大であった。

難は有難きかな。

## ～トクダネレポート～ 農業小学校シンポジウム

6月21日(土)坂下総合事務所を朝7時に出発し、長野県須坂市へ向かった。去年、高山市の荒城農業小学校であった農業小学校の交流会が、2回目の今年は信州すざか農業小学校豊丘校で「農業小学校シンポジウム」として開催された。参加者は校長・先生・OB先生・スタッフ・OBスタッフそしてスタッフ兼親の19名に、総合事務所企画振興課の加藤課長も同行してくれて大勢の参加となった。名古屋から参加の人たちは往路は電車で直接須坂へ向かい現地で合流することになった。

会場となった豊丘地域公民館は活動の拠点とは別の場所であったが、明治時代に建てられた校舎「旧園里学校」が別館として移築保存され、歴史資料の展示施設として、一部は会議室・研修室などに使われていた。教育県信州を感じさせるに十分な雰囲気であった。

松本市の桜柿羊の里(おうしょうのさと)農小をいれて4校・80名余の参加者が揃い、**第1部 開会** 主催者羽生田校長の挨拶に続いて、須坂市長の歓迎の挨拶があり、市教育長や信州大学の玉井先生、土井先生が紹介された。

**各校の活動報告** 最初は椈の湖農小で、山内が他校とは違った特色として、都会の消費者・小学生を持つ家族を対象にしている家族単位の参加であることや、卒業後のOB先生・OBスタッフの活躍、毎回の昼食(取れた野菜の郷土料理)などについて報告し、「農業小学校は野菜の命を育ててはいるが、野菜の命を全うさせてはいない。人は野菜の命を奪って自分の命をつないでいる。」ことを子どもたちに分かってもらい、命を大切にするために、安全な食・農の為に、自然環境を守る平和を守ることを一緒に学び考える「共育」を強調した。

桜柿羊の里農小は地域の農事組合が農地と里山を管理・活用する活動の一環に農小があって、松本市内の家族を対象にした取り組みを発表。サポート役の信州大学の学生からも子どもたちとの関わりなどが報告された。

荒城農小は写真を映しながら、飛騨ならではの特色ある行事の様子が報告された。年配者が多い中で、この日のために作ったと言うおそろいのTシャツを着た若いスタッフが大勢で活気があった。運営がJAに委託されたことでの問題点も気になるところであった。

地元すざか農小は農家先生の職員会が管理運営をやらせ、指導助手として信州大学教育学部の学生と須坂園芸高校の生徒たちが活動しているとのことで、子どもたちに農作業を分かりやすく教えるためのパネル「野菜のはなし」「野菜のうえかた」などを見せながら、農家先生と子どもたちの橋渡しをしていくためにも、農家先生との打ち合わせが大事であることなどを発表された。

**講演会** 信州大の土井進教授が「土から学ぶ子どもたちの未来」と題して、農作業体験は体験の三領域である自然体験・社会体験・生活体験のすべての領域で体験力をそだてることができる。土や生き物とのふれあいで豊かな感受性を培い、様々な人々との関わりによって社会力を向上させ、食農体験で感謝の念を養う。こうして得た体験は人間の命に刻まれて、生涯にわたって「生きて働く」体験力になるはずだと話された。

**昼食** 味ご飯・豚汁・漬物に地元名物のおやきなど手作りの料理に満腹になる。

午後からは**6班に分かれての分科会** 農小の運営、授業の進め方・子どもたちに伝えたいものなどなど、他校の様子を聞きながら意見交換をした。

須坂温泉古城荘に移動、それぞれ部屋でくつろぐ。

夕方からは**第2部 交流会** それぞれ持ち寄った地酒を酌み交わしながら、いっそう親しく懇談する。いろんな人といっぱい話したが酔っ払ってよく覚えていない。皆、椈の湖農小へ行ってみたいというのでキャンプの案内をする約束をしたはず・・・。

終了後 椈の湖農小のメンバーは、付き合い良く須坂駅前まで二次会に繰り出して行った安部兄たちを待ちながら一部屋に集まって交流。来年度は椈の湖で開催と決まったので、その時期、方法などで話が盛り上がり、大いに語り、笑い、楽しんだ。

22日(日) 羽生田校長さんの案内で、豪農の屋敷見学や須坂市動物園でのカンガルー「ハッチ」との対面などさせてもらい、来年の再会を約してお別れをした。善光寺へ詣でて、信州ソバを食べ、帰路に。中央道で名古屋組を中津川駅に送って、坂下へ。あらためて須坂の皆さんに感謝、感謝。